
IS ~ 空を翔る始まりと終焉の天使 ~

イサム

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

IS 〜空を翔る始まりと終焉の天使〜

【Nコード】

N2216T

【作者名】

イサム

【あらすじ】

かのIS、白き翼を雄雄しく羽ばたかせ空を翔る

助けを求める者をその翼で優しく包み・・・

弱き者に害為す強者をことごとく破壊する・・・

それはISの始まりのISにして、全てのISに終焉をもたらすIS

その名は・・・

「ウィングゼロ・ファイナル」

End of Waltz (前書き)

一応最終話的な・・・

Endless Waltzを見たことがある人はつまらないかもしれない。

後半が駄文な気が・・・

End of Waltz

西暦20XX年

全世界に対し亡国企業^{ファントムタスク}が宣戦布告した。

彼らは無人ISを大量生産し、各国を攻撃。

世界は全世界VS亡国企業の戦争に突入した。

これを受けて国連はISによる攻撃部隊「閃光師団」^{レイ・フォース}を結成、亡国企業殲滅の任務を与えた。

激しい闘いの末、レイフォースはついに敵のアジトをつきとめた。

しかし、ここで悪いニュースが二つ飛び込んだ。

一つは核国の核ミサイルの管理を行っている「核ネットワーク」にファントムタスクがハッキングを掛け、掌握されるまでに1時間ほどしかないということ。

核ネットワークが掌握され、全核ミサイルが発射されれば地球の人口の約80パーセントは死滅すると科学者たちは結論を出した。

そして、もう一つはレイフォースのエースパイロットである日暮イサムが親しくしている織斑千冬、マリィダ・クルス、マリナ・イスマイルがファントムタスクに誘拐されたということ。

先程、ファントムタスクから通信が入り発覚した。これには、イサムだけではなく織斑一夏も驚いた。

幸いなことに殺しはしないといって入るが、これでは動くに動けない。

しかし、核ネットワーク掌握までのタイムリミットは余り残されていない。国連は人質達の救助を断念。最後の命令を下した。

「敵アジトを一国も早く破壊せよ!!」

「くそっ!!ふざけるな!!!千冬姉たちの命はどうだって良いってのか!!!!」

織斑一夏はやりきれない怒りを拳に乗せ、壁を思いつきり殴った。

ドンッ!!

と鈍い音がパイロット控え室にこだまする。
ほかのパイロットたちは何も言わない・・・いや、言えない。一夏の気持ちができるからだ。

敵アジトを攻撃すれば人質も巻き込まれ死ぬ可能性が高い。しかし、攻撃しなければ核ネットワークを掌握され世界は破滅するだろう。だからといって人質の一人は一夏の姉なのだ。そう簡単に割り切れるものではない。

考えてみれば、人質は皆レイフォースに深い縁のあるものばかりだ。

一夏の姉でありイサムが親しくしている初代ブリュンヒルデ、織斑千冬。

最初は敵だったがイサムによって説得され、その後共に戦ったマリダ・クルス

現代の聖母マリアと謳われレイフォースに多大な資金援助をし、イサムと親しい、マリナ・イスマイル、ロ・マ皇女殿下

用意周到に計画されたものだったのだろう。幾等、初代ブリュンヒルデと言っても生身でISに立ち向かうことなどできない。マリイダも然りだ。運悪く二人のISは研究所で調整中だった。

マリナ姫のISには攻撃機能はついていない。それでは対抗することなどできない。

「格パイロットは至急ブリーフィングルームに集まってください。繰り返し、格パイロットは至急ブリーフィングルームに集まってください」

不意に艦内放送が流れる。その放送を聴きパイロットたちはそれぞれパイロット控え室を出て行く。

一夏は壁を殴った姿勢のまま動こうとしない。彼の学友であるパイロット達が声をかけようとしたが、結局良い言葉が見つからずその

ままブリーフィングルームに向かっていった

静寂が辺りを満たす。

しかし、それはすぐに破られた。人が入ってきたのだ。

「一夏、艦内放送を聞いただろ？早く行こう」

日暮イサム。レイフォースのエースパイロットであり最強のIS「ウイングゼロ・ファイナル」に搭乗する者だ。

イサムの言葉を聴き一夏は更に俯き、搾り出すように言葉を吐く。

「・・・わかってるんだ本当は。それが一番良いんだって。・・・でも、でも・・・そう簡単に割り切れないだろう！！家族なんだよ！たった一人の家族なんだ！！」

心の中に溜まっているもやもやを吹き飛ばすかのように最後は叫び声になる。

「わかってるよ。でもだからといってこのまま何もしないのかい？それでは何も変わらない、変えられない。だったら行動してその中で最善と思うことをなせば良い。さっき僕から君の単独行動許可をかけた。・・・承認されたよ」

イサムの言葉を聴いて一夏の瞳に生気が宿る

「本当か！？こうしてはいられない！行こうぜイサム！！」

そういつてイサムの腕を掴み強引に引っ張ってブリーフィングルームに入っていた。

「まず始めにだが、諸君らに知らせなければならないことがある。今回の戦いだが今まで以上に厳しいものと予想されるということだ。これを見てくれ」

メインスクリーンの動画が映し出される。それを見てほぼ全員が驚きの声を上げる。

「うそ！？これってまさかアルミューレ・リュミエール！？」

「世界最強の防御光波シールド・・・こんなものが」

「これではダメージを与えるのは容易ではないぞ」

「アルミューレ・リュミエール」世界最強の防御光波シールドだ。
5個の発信機からモノフェーズ光波シールドを発生させ全方位に展開する全方位展開シールドである。

「そう、みんなの言うとおりだ。これでは此方の攻撃はほぼ通らないと見て良い」

「そんな・・・それではどうすれば・・・」

「案ずるな、手はある。一夏、お前だ」

全員が一夏に顔を向ける。突然の名指しに一夏はまぬけ顔だ。

「お、おれ？何で??？」

「お前には雪片があるだろう。あれならば一瞬だけだがアルミューレ・リュミエールを向こうかできる。その隙に飛び込めば此方のものだ。イサムのツインバスターライフルで破壊することもできるだろうが、ウィングゼロ・ファイナルは前回の戦闘で受けた損傷が直

っていないから出撃できん。わかったか？作戦の鍵はお前だ」

「まさか、こんな大役をやることになるなんてな」

ブリーフィング後、カタパルトにて発進準備をしながら一夏が愚痴る。

「それだけ一夏を信頼してるということだぞ？もっと自信を持て」

同じく準備をしていた篠ノ乃箒がそんな一夏に声をかける。それをきっかけに

「そういうことですわ一夏さん。がんばってください」

セシリア・オルコットが

「その通りよ！自信持ちなさいって！」

鳳鈴音が

「まったく、一夏は心配性なんだから」

シャルロット・デュノアが

「あまり自分を卑下しないことだな」

ラウラ・ボーデヴィツヒが

「そうそう、お姉さんも認めているのだからね」

更敷楯無が

「ふふっ、相変わらずね」

ナターシャ・ファイルスが

「ナタルの言うとおりだぜ！！もっと自分に自信持てって」

イリス・コーリングが次々と声をかける。みんなが一夏を信頼し

ているのがわかる。

「いざという時は私たちが守って差し上げますわ。そうでしょう、皆さん？」

「「「「「「もちろん！！」「」「」「」

みんなの言葉を聴いて恥ずかしいのかポリポリと頭を掻きながら「参ったな」と小さく呟く。

「そんなこと言われたらがんばるしか無いよな！！！」

「これより作戦名「亡国企業殺し（ファントムブレイカー）」を開始します。格パイロットはカタパルトより随時発進してください。繰り返します、これより作戦名「亡国企業殺し（ファントムブレイカー）」を開始します。格パイロットはカタパルトより随時発進してください」

オペレータからの通信を受け、一夏たちは発進体勢に入る。

「織斑一夏、白帝白式^{はくていひやくしき}行きます!!」

「篠ノ乃箒、繚乱^{りょうらん}椿^{つばき}でる!!」

「セシリア・オルコット、ブルー・デザイア行きますわ!!」

「鳳鈴音、神龍^{シェンロン}行くわよ!!」

「シャルロット・デュノア、テンペスター・リヴァイブ行きます!!」

「ラウラ・ボーデヴィツヒ、シュバルツァ・ブレイズ発進する!!」

「更敷楯無、インブレイス・クイーンいつきまゝす」

「ナターシャ・ファイルス、リインフォース・ゴスペル発進します」

「イーリス・コーリング、フェンリル・ファング行くぜ!!」

「みんな、頼むよ・・・僕はゼロの修復を急がなくては」

「こちら一夏、目標まで距離2500まで接近。異常はありませんか？」

余りにも何も無いことに不安を覚えオペレーターに問いかける。

「はい、現在の所は何も確認でき・・・」

「海中に熱源反応多数。ロックされています」

白帝白式からの警告に機体を右にロールさせる。見ると、先程までいた場所には幾つもの光線がはしっていた。

「ステルス使つての待ち伏せ！？クソッ！誘い込まれたのか！？」

すぐさま敵に近づき雪片で切り裂いてゆく。

ほかのみんなも各自で応戦を始めていた。

敵のビームを急上昇して回避し、すぐさま急降下して頭部に雪片を

突き刺す。無人機だから遠慮は要らない。

その隙をついてこちらにヴィームを撃とうとしている無人機に雪片を抜いて先程破壊したやつを蹴り飛ばし爆発に巻き込む。

「俺の邪魔するんじゃない！」

また別の敵に接近し斬りつける。

そんな戦闘が30分程続いた。

各員必死に応戦していたが、人間だ。疲れがでてきてだんだん動きが鈍ってくる。

自然と全員が一箇所に集まり背中を守るような戦いをするようになってくる。

そこに・・・

「!!!!!!電磁ネット・・・・!!!!!!」

電気を帯びたネットが飛んできて、全員をすっぽりと包み電気が流れた。

「「「「「「「「「「ああああああああああ「「「「「「「

電撃が収まると、後には気絶して動かない9人が横たわっていた。

「一夏！……！」

千冬がモニターに移った自分の弟の姿を見て悲痛な叫び声をあげる。

「これで、邪魔者は居ない。ゆっくりと世界のおわりを見届けられるね」

「貴様……！！！」

「そう怖い顔しないでよ。世界の終わりを特等席で見れるんだからもっと嬉しそうな顔をしてよ」

「まだ、そうと決まったわけではない」

「あれ、マリーダちゃんもしかして奇跡とか信じちゃってるの？」

「まだ、イサムが居る」

「あははははは。彼かい、彼のISは今盛大に壊れているみたいだから出てこれるわけが無いでしょう。現実を見なよ、それともあれかい？作られたもの同士の感応ってやつかい！？」

「イサムは来ます」

「これはこれはマリナ姫、随分と彼に御執心なご様子。ですが思い込みはいけませんね。イタイですよ」

「いいえ、彼は必ず来ます。貴方の凶行を止めるために」

「へえ、それは・・・」

「じよ、上空に量子反応・・・これは!?!」

「なにっ!?!」

「各部装甲に深刻なダメージ。恐らくツインバスターライフルを撃つことに随時崩壊していきます。また、スラスター移動が不可。現在の体勢の維持が限界です」

案の定最悪か。だが、やってみせる。

「来ただろう?」

ニヤッと笑みを浮かべながら千冬が勝ち誇ったように言う

「ああ、来たな」

「来ましたね」

マリーダとマリナもそれに続く。

「ふ、ふん。き、来たからといって、う、撃てるわけが無い。ここには君たちが居るんだからね!!」

「アイツは撃つよ。イサムは100を救うためならば例え大切だとしても

1を切り捨てる」

「よ、よしんば撃てたとしても、ア、アルミューレ・リュミエールを破れるわけが無い!!」

「なら、何故そんなに怯えていらっしやるのですか？」

「な、なにをおっしやる姫様。怯えてなど居ない!!」

そう言つと「

」はイサムに通信を開く

「撃てるものなら撃ってみろ!!できるのならな!!!!!!」

「レイ、シールドエネルギーをツインバスターライフルのチャージエネルギーに変換しろ」

「了解。変換・・・完了。いつでも撃てます」

「・・・破壊する」

カチツとトリガーを引く。

瞬間、ツインバスターライフルから極太のビームが放たれアルミニウム・リユミエールに直撃し轟音をとどろかせた。それと、同時に左腕と左足の装甲が崩壊し爆発する。爆発をもろに受け左腕と左足から血が盛大に噴出す。

「うぐっ・・・」

「くっ、左推進システムが破損！さらに照準機が大破！！」

「問題無い。照準は目視で行う。姿勢制御を頼む」

「了解。次弾いきます！！」

再びトリガーを引く。

先程と寸分変わらず同じ場所にツインバスターライフルが命中した。

「バ、バカな。本当に撃った!？」

驚愕で目を見開き男が叫ぶ。

「シールド強度18%にまで低減!!ウイングゼロ・ファイナルの照準はコンマ2桁まで全く狂いがありません!!同じ所をもう一度攻撃されれば此处は確実に崩壊します!!」

オペレーターの男が悲痛な叫びを挙げる。

「な、なにやってんの!!あの、気遣いを落とすんだよ!!」

「パイロットから通信が!!」

「何だって!？」

メインスクリーンにイサムの顔が映し出される。

「一度だけの警告だ。今すぐ核ネットワークへのハッキングを止めさせる。でなければ撃つ」

「だ、誰が止めるか!!! もうすぐなんだ!!! この汚い世界を浄化できる!!!」

「・・・了解した。破壊する」

「イサム、私たちのことは気にするな」

「千冬の言つとおりだ。撃たなければ何十億もの人死ぬ」

「それは、絶対に避けなければなりません」

イサムは3人の言葉を聴いて一瞬悲しそうな表情を見せ、通信を切

った。

敵の無人機のビームが何発か襲い掛かる。すでにシールドエネルギーは底を突いているために全てがイサムの体に突き刺さる。空気中の塵などによりだいぶ威力が落ちているがそれでも焼いた棒を突き刺されてるような痛みだ。

「ちーねえ・・・マリダさん・・・マリナ・・・・・・すまない。でも寂しい思いはさせない・・・僕もすぐに行く」

「レイ、すまないな。お前を道連れにする」

「私はイサムの剣であり楯です。私の運命は貴方と共にあります」

「ありがとう」

イサムはフツと微笑むとトリガーに掛けている指に力を入れる

「これが僕たちのラストシューティングだ」

イサムが最後のトリガーを引いた瞬間、ウイングゼロ・ファイナルの装甲は粉々に砕け散った。

End of Waltz (後書き)

次回は時間逆行します。IS学園に入る前の話です。

天使降臨 前編（前書き）

出張先の長野より携帯で投稿です！

天使降臨 前編

織斑一夏が初めてISを動かした日より約二年前、地球が滅亡の危機に晒されたことがあった。

地球に巨大彗星が接近、重力に引かれ衝突すると予測されたのだ。

しかし、この予測を各国高官はくだらないと一蹴した。だがそれから3日後、状況は一変する。NASAの超長距離天体望遠鏡が巨大彗星を捕らえたのだ。天文学者達はすぐに巨大彗星の軌道を計算した。その結果、巨大彗星は地球への直撃コースを辿っていることが判明した。しかも、この彗星はたちの悪いことに恒星であることもわかった。恒星とは自ら光を発する星のことだ。光を発するということは莫大な熱を持っているということと同意だ。

彗星の直径は約30キロ。これだけの質量と熱を持った彗星が地球に衝突すればどうなるかなど目に見えていた。

最終落下地点が太平洋のド真ん中の為、まず考えられるのは津波だ。太平洋のド真ん中に落ちるということは、ほぼ全世界に津波が押し寄せるということだ。

それだけで世界の人口の30%は死に絶えるだろう。

また、彗星が衝突した衝撃で各活火山の活動が活発化、地震の誘発が予想される。

大噴火と地震によって、10%の人が死亡するだろう。

更には、彗星の衝突、火山の噴火により舞い上がった塵が空中に層

を形成。

太陽の光を完璧にシャットアウトするだろう。

それにより、まず草花が育たなくなる。

生態系というのは食物連鎖によって成り立っている。その連鎖の最初である草花が育たなくなると全ての生物が育たなくなる。

まずは草花を餌にする鳥や牛、馬などの草食動物が、次にその草食動物を餌にする肉食動物が、最後にそれらを食する人間が死滅する。

それらが示すのは地球滅亡。

そして、地球滅亡の危機に世界は立ち上がった。

全世界に点在する全ての起動可能なISを集結、国連軍として運用

した。

その名を「ブルーアース・オブ・メサイア（地球の救世主）」と言った。

巨大彗星の衝突まで、残り1時間30分。

太平洋上に起動可能ISの全てが集結し巨大彗星破壊作戦が開始された。

俗に言う「メテオブレイカー作戦」である。「各IS、所定位置に着きました」

「そうか…」

若いオペレーターの配置完了の報告を聞き、作戦指揮官であるサリエル・ミューラーは静かに厳かに応えた。

表面上では平静を装ってはいるが、内心は緊張しっぱなしである。

それもそうだろう。この作戦に地球存亡がかかっているのだ。

いわば、地球を背負っていると言っても過言ではない。

しかし、彼女は不安を振り払い全ISへの通信回線を開く。

「全ISに告げる！これより作戦名メテオブレイカーを発動する！諸君らの背中には地球の存亡がかかっている！恐れるな！自分の大切な者のため死力を尽くせ！！全軍、攻撃開始！！」

初代ブリュンヒルデ。その単語を聞けばほぼ全ての人間がとある人物を思い浮かべるだろう。

「織斑千冬」 恐らく現在世界最強のIS搭乗者だ。

彼女も地球滅亡の危機に立ち上がり、かの地へやってきていた。

「これだけ撃つても殆ど質量は変わらずか…これで終わりか…」

彗星へ砲撃を放ちながら千冬は愚痴をこぼした。

愚痴の一つもこぼしたくはなるだろう。

先程から全ISが休みなく攻撃しているが質量が殆ど変わっていないのだ。

見れば周りの者も絶望的な表情をしている。

だが…

「諦めるわけにはいかないな。あの子の為に一夏の為に…」

あの子、私が好いているたった一人の男だ。

あの子が居たから本当の意味で強くなれた。

あの子が居たから優しさを持てた。

あの子との思い出があるから頑張れる。

あの子との約束が私の生きる意味だ。

「イサム…」

思わず名前を呟いてしまう。

会いたい。

また、お前の笑顔が見たい。
い。

また、一緒に買い物をした

また、声が聞きたい。

また、触れあいたい。

また

また、また……………

「だ、だめです！彗星は以前健在！各IS、エネルギー限界！こ、
これでは！！」

オペレーターの悲痛な叫び声が聞こえる。

衝突まで残り30分…

「もう、無理か……まだ、この想いを伝えられていないんだがな……」

伝えられていない想い、それは…

「イサム…私はお前のことが…」

「ア、アンノウンが超高速で接近！」

せめて、言葉にと口にした想いは小娘によって遮られた…

「小娘が後でコロ…ではなくて！！アンノウンだと！？」

唐突にアラームがけたたましく鳴り響いた。

「どうした!？」

「ア、アンノウンが超高速で接近！」

「映像を出せ！」

サリエルの言葉にすぐさまスクリーンに映像が映し出される。

そこには4つのブースターから盛大に炎を噴いている白い物体が映し出されていた。

「何だ！？ミサイルか！？」

「ち、違います！こ、これは、ISコア反応！？形式番号は0000
！？」

「バカを言つな！そんな形式番号のコアは存在しない！」

「しかし、確かにデータに登録されて…アンノウンに動きが！」

その言葉に慌ててスクリーンに目を向ける。

4つのブースターが切り離され、更に白い物体が幾つかパージされ

海へと落ちる。

その場で左に一回転すると白い装甲が開かれ、その姿が露わになる。

その姿は異様だった。何が異様かと言うと装甲だ。フルスキンなのだ。フルスキンのISというのは開発されていない。最も異様なのは背中にある4枚の翼だ。どうやら白い装甲だと思っていたものは翼だったらしい。

その姿はまるで…

「天使…？」

そう、天使そのものだった。

全員が呆気にとられてスクリーンを見つめる中、そのISは翼を羽ばたかせると一直線に作戦場所を目掛けて飛んでいった。

「あ、ありえません！この速度は我が軍の最新高速機動パッケージの3倍です！」

「バカな！？」

「本当です！5秒後に接触します！！…3、2、1…コンタクト！！」

天使降臨 前編（後書き）

疲れました。携帯で執筆するのは疲れます。本当は前編、後編に分けるつもりは無かったのですが、指が疲れたのでやむなく…

ゼロ・ファイナルの起動シーンは「新機動戦記ガンダムW End
less Waltz」のゼロカスタムの起動シーンを思い浮かべて
いただけたらと思います。

勿論、BGMはTWO-MIXのLAST IMPRESSIONで

お知らせ

皆さん、お久しぶりです。

活動再開の目処が立ちましたので報告させていただきます。

仕事の方で急に海外へ長期出張してしまっただため小説の執筆を断念せざるを得ない状況でした。パソコンも3・11の自身により壊れたため、会社より支給された仕事用のパソコンしかなくどうしても再開の目処がたちませんでした。

しかし、つい先週ようやく日本に帰国しパソコンの方も新たに購入することが出来ましたので、徐々にですが執筆を再開したいと考えています。

つきましては皆さんのご意見をいただきたいと思います。

執筆停止中である

IS 蒼空を駆ける者たち
デステイニー・ブレイカー

のどちらかを執筆再開するか

新たに作成中の以下3作品のうち1作品を執筆するかです

1・仮面ライダー響鬼 最後の戦鬼

2・仮面ライダー555 紅き閃光の記憶

3・機動戦士ガンダムUC THE ANOTHER

1は響鬼本編から28年後のお話です。

時代が進むに連れやがて鬼を受け継ぐものは少なくなっていくた・

・
明日夢の弟子にして最後の鬼の継承者となった少年と少女が会った時、新たな物語が紡がれる・・・

「それは、まあ鍛えてるからね」

2は555の主人公差し替えの小説です。

もしも巧と同じ人生をまだ17歳の少年が歩んだらというお話です。夢が無い少年が出会ったのは一人の女性、そこから止まっていた歯車がゆつくりと動き始めた・・・

「例え僕自身に夢が無くても・・・誰かの夢を守ることはできる」

3はガンダムUCの主人公差し替え小説です。

ヒロインはマリィダさん。これ、重要です。

少年が少女と出会う時、刻が再び動き出す・・・

「マリィダさん、僕たちは戦っちゃいけないんだよ！ーそう、マリィダさんも感じてるでしょ！？」

君は刻ときの中に真実の愛を見る・・・

以上です。ご希望があれば教えていただきたいと思います。
よろしく願います。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2216t/>

IS ～空を翔る始まりと終焉の天使～

2011年10月8日13時00分発行